

飯山市環境審議会委員委嘱状交付式及び第1回飯山市環境審議会 議事録

日 時 令和3年7月15日（木） 午後2時～午後4時
場 所 飯山市役所4階 全員協議会室
出席者 別紙名簿のとおり
資料等 別添資料等のとおり
議 事 次のとおり

○委嘱状交付式

1 開 会 (事務局)

2 委嘱状の交付

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、出席委員への机上交付

3 市長あいさつ (足立市長)

本日は第1回目の環境審議会ということで、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。飯山市では、環境全般にかかる計画として環境基本計画を策定し取り組んできました。これまでに第1次、第2次と重ねて策定し、第1次は平成14年度からの10年間、第2次が平成24年度からの10年間としてきました。昨今、環境に対する関心は世界中で高まっており、環境問題は全世界的にクローズアップされています。今年度、第3次の環境基本計画を、令和4年度、2022年度から令和13年度、2031年度までの10年間を計画期間として策定します。第2次の計画が目指したところの評価、飯山市の環境のあり方について、皆さんと協議検討させていただきます。地球環境については、SDGsやカーボンニュートラルの取組みが未来に向けての大きな課題となっています。飯山市の未来の環境に向けて、建設的なご審議をいただきたいと思います。

4 審議会委員自己紹介 名簿に従い順次自己紹介

○第1回審議会

1 開 会 (事務局)

本審議会の会議内容については、議事録を作成し、ホームページ上で公開します。ホームページ上では、各委員の氏名をアルファベット表記等に変えて公開しますので、ご了承ください。本日、過半数の委員の出席があるため、市環境基本条例第26条第2項の規定により、本会議は成立することをご報告いたします。

2 会長及び職務代理者の互選

意見等が無いため、事務局案により、会長に小林芳裕委員、職務代理者に池田澄子委員が着任。
(会長)

名簿を見ると、それぞれ専門的な見地をお持ちの方ばかりのようだ。いろんな意見をどんどん出していただく場をつくるのが会長の仕事だと思っている。ご協力を願いしたい。

(職代)

飯山がとにかく大好きだ。力及ばないが、会長の補佐として務めていきたい。

3 諒問

足立市長より、小林会長へ諒問

(足立市長)

市民の皆さんに環境に関して積極的に行動をしていただきたい。そんな内容を盛り込んだ環境基本計画にしていただけるとありがたい。

4 審議

(1) 第3次飯山市環境基本計画の策定について

事務局より説明（資料No.2, 3）

(会長)

環境基本計画の策定について、またスケジュールについて提案があった。質問等があれば受けたいがいかがか。なければ先に進むが、また戻ってのご質問、ご意見等もお聞きしたい。

(2) 第2次飯山市環境基本計画の評価について

事務局より説明（資料No.4）

(会長)

環境基本計画の評価が出ており、これについてご質問があればお受けしたい。

(委員)

水質汚濁の関係で、千曲川の採水の季節と場所をお教えいただきたい。

(事務局)

千曲川の採水地点ですが、上流から、古牧橋、大関橋、市川橋です。前回の計画策定時はこの3か所に加え、綱切橋で採水していた。ただ、上流から下流までのポイントを踏まえると、小牧橋と綱切橋ではあまりに近すぎるという観点から、先ほど申し上げた3点に絞っている。採水の季節は、6月、8月頃、2月と記憶している。再度確認させていただきたい。

(委員)

この数字で見ると、飯山市の川はきれいだが、上流から来る水は・・・、と見える。

(委員)

3ページのごみの処理量について、一昨年の台風19号のごみも含まれているか。

(事務局)

数値については再度確認をさせていただきたい。おそらく令和2年度は災害廃棄物の分は除外されていると思われる。災害廃棄物についてはエコパーク寒川に持ち込んだ際に申告していただくと

減免の制度があるためそのようにお願いしていたが、中には申告をせずに持ち込んでしまったという例もあるため、そのような分が多少数量に含まれているとご認識いただきたい。家屋の片付けごみを旧城南中のグラウンドに集積し、そのごみも一部エコパーク寒川に搬入したが、それは令和元年度中のことであり、資料で現状値としてお示ししたのは令和2年度の数値であるため、この中には入っていない。

(委員)

自然観察会の参加人数が去年度は8人しかいなかつたとあるが、これは要因としてコロナ禍の影響が大きいのか。それとも子どもたちが興味を失ってしまっているのか。目標値100人に対して8人しかいないというのは、コロナの影響で公民館の行事が行われなかつたりして8人という数字が出てしまったのかなと思った。

(事務局)

そのようなご見解でよろしいかと思います。

(事務局)

去年は黒岩山観察会も開催できず、せせらぎサイエンスも中止だった。

(委員)

せせらぎサイエンスは私も毎年参加しているが、確かに去年は中止だった。8人という数字がどういうものなのか気になって質問した。

(会長)

他にはどうか。全体を通して意見を出す場もこの後用意します。そこで振り返って出していただければと思うので、次に進みたいと思う。

(3) 事前アンケート結果について

事務局より説明（資料No.5, 6）

(会長)

大変膨大な資料であるので、読みとっていくのも大変なところはある。質問等あれば出していただきたい。

(委員)

出てきた数値は回収した分に占めるパーセントだと思うが、配布数1,000部に対して回収率が45.7%と約半数である。やる気のある人はやっていて回答もしてくれるが、もしかしたら回答していない約50%の方に課題があると思っていた方がいいのではないかと思った。

(会長)

アンケート自体も膨大なアンケートかと思う。本日の会議次第で、(4)に環境の現状についての意見交換というものがこのあとある。そこで今日の資料を基にして、またはそれぞれのご立場でのご意見をいただければと思う。ここで、資料を読む時間や水分補給の時間も含めて少し休憩を取りたいと思う。

(4) 環境の現状についての意見交換

(会長)

環境というと、自分が買い物に行くときにエコバッグを持って行く、ということから、地球規模

の話まで、とにかく身の回りすべてが環境といえば環境なので、どのように捉えて話を進めていけばいいのか分からぬところもある。しかし、それぞれみなさんの日々の生活で感じている環境の問題や、専門の研究から感じる環境の問題など様々あると思う。遠慮せず出していただくということがなによりも大事である。職代に口火を切っていただきて、順番に意見をいただきたい。出していただいた意見にすぐに事務局からの回答を求めるることはせず、今日は思っていることを出していただき、次回までに事務局に整理をしていただくということにしたい。とにかく、仕事上で思っていること、日々の生活のなかで思っていること、心の中で環境に関して課題だと思っていること等を遠慮なく出していただきたい。

(職代)

私は仕事で群馬県の渋川へ行っている。国道353号線を通って千曲川沿いにおりていて、清津峡のある川を見ながら、群馬県の利根川を渡って仕事場へ行く。水がきれい。千曲川も栄村の先は少しはきれいだが、飯山市周辺の川はなぜこんなに茶色で汚いのかといつも感じている。どうしたらこの川がきれいになるかと考えている。1市町村だけで頑張っても川の問題は解決しないだろうということは分かるが、透き通った川の水はどうしたら実現できるのだろうかと夢のようなことを考えている。もうひとつは、民生委員を長くやっていた関係で、無人の家で手が付けられなくなつて崩れかけているという家を何軒か見ている。親戚のおばさんが亡くなった時に、無人になった家を取り壊すのにどれくらいお金がかかるか見積りをとったところ、建設会社で取り壊して処分するとなると200万円以上かかるとのことだった。家を壊すのにはとてもお金がかかる。自然に壊れていくのを待てばいいのだろうが、それもどうかと思う。経費を軽減して家を取り壊す方法が無いかというのは、今私が一番考えていること。というのも、私の家も私を含め前期、後期高齢者の夫婦である。十数年後にはあの家がなくなるとしたら、どうしようかと悩んでいるところ、この委員会に参加できてよかったです。皆さんの知恵を拝借して、無人の家を経費で解体するいい方法があつたらいいなということを痛切に考えている。水の問題と廃屋の処理の問題が、今一番心に抱いていること。無理なことかとも思うが、皆さんの知恵を拝借したいと思っている。

(委員)

今職代から話のあったことに関連して、市の移住定住推進課で空き家の調査を行っている。岡山地区も空き家が増えてきた。市でそういった空き家の把握をして、解体したり移住したい人に役立てるための調査をしているようなので、そこは任せたいと思っている。荒れ果てた家もある。家のまわりで野菜を作っているが、鳥獣被害も出ていて、今日もそんな話をしたところだ。トマトが少し赤くなっただけでやられてしまったという話もあった。おてんまをやっていても、道路や河川の整備は、昔は人もいたのできれいにやっていたが、今は高齢化が進み人数も少なくなって、なかなか昔のようにきれいにすることが難しくなった。市の道路河川課で、いじしゅうぜん事業ということで補助をもらってやってはいるが、何しろ人手が無いので大変である。

(委員)

資料にあるとおり、行政と市民と事業者が連携して環境問題に取り組んでいくということかと思う。私も一昨年か昨年か、ごみ減量の委員会に出させていただきて、エコパークに行く事業系のごみがものすごく多いと聞いた。家庭のごみは少ないが、という話だったので、3年くらい前から事業系のごみを減らすように取り組んでいる。事業者も、一般市民と同様に環境に関しては関心が強い。しかし事業者がすぐに環境に関して取り組めるかというと難しいところもある。たとえば、ア

ンケート項目の中に廃油のリサイクルをするという項目があったが、高いお金を掛けて廃油をエネルギーに変えて、事業用のモーターを動かすという取り組みがホテル等にある。廃油等の資源を再利用するといった機械や設備が開発されて出てきている。そういうた設備を買えればどんどん取り組んでいけるが、小さな事業者ではなかなか難しいことでもあるので、もう少し待っていただきたいというところである。

(委員)

環境変化という点で、昔と違って長雨が続いたりして、生産者の減少という面もあるが、農産物の生育がよくないという状況がある。自然環境の大切さが農産物の生産にも関わってくる。個人的には、小学生の頃は川で釣りをしたり手づかみで魚を捕まえたりしていた。当時は下水も無く汚れた川もあつただろうとは思うが、魚は結構いた。下水が発達してからは魚がいなくなってしまった、どういう環境の状況なのかと考えている。千曲川の流れが変わって魚が上がって来れなくなったのか。個人的にはそんなことが知りたいと思っていて、これを機会に調べられたらと思う。

(委員)

同じ集落のある方が、毎年使った農業用マルチを山積みにして置いている。去年から攪拌して土に還るマルチを使い始めたようだが、今年は強風でそのマルチがすべて破れてしまい、今は雑草で覆われてしまっている状況である。こんなことでは、土に還るマルチも意味がないと思っている。積んでいるマルチもどう処分するのかと思って見ているが、何年たってもそこに置いてある。少しずつでも片付けて処分していくべきにと思いながら見ている。やはりその都度片付けていかないと、忙しくて手が回らなく溜まってしまい、大変な状況になってしまうということは、家のまわりもあるし、どこの地区もあると思う。自分の行動として、買い物に行くときはエコバッグを持って行くようになった。他の人達も見ていればみんなエコバッグを持っているので、だいぶ改善されて来ていると思う。

(委員)

ニュースでも見るが、最近は毎年7月の2日、3日頃には大災害が起きている。子どもの頃は、その時期はそんなになかったように記憶している。災害で亡くなる方が出るということが、数年続いている。これらの全てかどうかは分からぬが、地球温暖化の影響が非常に大きいと言われている。そういうところからも環境に対して興味を持っており、今回この会議に参加している。もし分かれば事務局から回答をいただきたいが、先ほどの第2次計画の評価の資料で、4-2の省エネルギーに関する指標の評価の中で、評価項目が4つあるが全て×になっている。アンケート結果を見ると、事業所を含めて地球温暖化に非常に興味があるというアンケート結果が出ていたので、これらの関係性はよく分からぬが、このあたりが×でなければいいな、というのが資料を見た感想である。この中で、市内の電力消費量が「-」になっていて、現状の把握がされていないということだが、これからエネルギーは電気にどんどんシフトしていくと思うので、ここの数字が把握できればいいと思う。

(会長)

市内の電力消費量が出るのか出ないのかは検討していただき、この場で出なければまた次回ということでお願いしたい。

(委員)

アンケートにもあるとおり、自由意見はほとんど、7割、8割はごみのことについての意見であ

る。優先すべき項目についても、1番目は地球温暖化対策、2番目にごみの減量やリサイクルの推進が入っている。ごみを回収する側からの意見になるが、生活環境係ともよく話はしているが、ごみステーションの大きさ等が適正なのかということをデータとして意見を出したい。びんとペットボトルなどの回収日が重なることがあるが、そうなるとステーションからあふれる場合が多くあり、景観の面や、カラスや虫など環境の面でもよくない。弊社でもステーションが汚れていればある程度はきれいにして次の回収場所へ向かうが、なかなかきれいにならない場所もある。住民みんなのステーションなので、出す側が気持ちよく出せれば、回収する側もしっかりきれいにして行こうという気持ちになる。アンケートも500人は回答していないので、それを踏まえても、ごみの出し方について、分かりやすく、関心を持てるようにしていければと感じる。

(会長)

ごみを集めていただいている方の率直な意見というのは初めて聞いた。委員への質問があればまた出していただければと思うので、その時はよろしくお願ひします。

(委員)

今は定年退職したが、以前は企業に勤めており、その頃は省エネや有害物質に関してやっていた。そういったことについては、色々な知恵が世界中にある。簡単に言えば、そういった知恵を引っ張ってくればなんとかなるというもの。しかしこの頃家で農業や色々な事をしながら考えていると、家のまわりを見ると無人の家が出てきている。高齢化によって農地が荒廃し、雑草だらけになっている。そこが資材置場だとか言いながらいろいろなものが置かれてくる。家の池にはアメリカザリガニがいて、日本の古来種じゃないがいつこんなものが来たのか、と思う。タヌキやキツネやハクビシンはまだかわいいものだが、近頃は家のまわりにもクマがいるし、注意して見ていると、この地方ではまだ確認されていないはずのアライグマの足跡も見た。飯山は自然が豊かというが、冬は雪との戦いでこれは仕方のこと。夏はとすると、雑草との戦いである。荒廃した農地の雑草の問題は大変で、自分の畠を守るために草刈りをしようと思うと、隣の畠の半分ほどの草を刈らないと自分の畠の維持ができない。自然に戻るからよいという話もあるが、それで実際に生えてくるのは外来種の草だったりする。飯山には、いつの間にか外国の動物が入ってきたり、外来種の植物が生えたりと、古くからの日本ではなくなってきている。環境というものを考えるうえで、これは何とかしなくてはいけない問題。人口が減って自然と雑草だらけになって朽ち果てていくのかと思うと残念で仕方がない。廃屋の問題や農地の問題はぜひ何とかしたいと思っている。草刈りを専門に仕事にした方がいいのかなど思うこともある。市の助成金に、草刈り機を買う助成金などはないものか。元気なうちはいくらでも草刈りができる。自然を守る、環境を守るというなかには、日本古来の自然を守るという視点が必要ではないか。つい最近思うのは、土石流で非常に痛ましい災害があったということ。飯山ではどうなのかと考えると、岡山で上段から来たことがあったり、長峰でもいろいろな場所に土砂が崩れている所がある。そういったことも考えていかないと、飯山は自然が財産というがどうなってしまうのだろう。子どもたちの世代へとずっと引き継いでいくうえで、このままでは引き継いでくれないのではないか。

(委員)

飯山市で鳥の写真を撮ったり水生昆虫の観察会に行ったりしているが、第2次環境基本計画の表紙のイラストは、飯山市の現状を表して良く描けていると思う。しかし、5年後、10年後、今もすでにそうかもしれないが、山の中に描かれているツキノワグマが、市街地に顔を出しているように

なる。保護するのもいいが、農家の話を聞くと、商材である農作物が食い荒らされて収入が台無しになったという話をよく耳にする。自然保護という立場に立っている身としてどう思っているんだ、ということもよく聞かれる。私も商売をやっているので、農家が農作物を食べられて収入が台無しにされれば大変なことは実感している。自然と農作物の共存や、バランスを取るということを考えると、非常に難しい問題。人間も生活していかなくてはいけないし、ツキノワグマやイノシシも生きていかなければいけない。残念だが飯山市の自然環境ではすでにそのせめぎ合いになっているということは話を聞いたりする中で実感し、大変な時代が来たと思っている。人間が生活のために銃で間引くようなことをすれば、自然や動物を守る立場の人からは反発を受ける。かといって保護するばかりでは農作物で生活をしている農家にとって死活問題となってくる。そういう点で、過渡期や分水嶺に来ていると感じる。私は自分では農業を営んでいないため、話を聞いて大変だろうなとは思うが、本当の実感というものは無いのかもしれない。せっかく作った農作物が食べられてしまったとか、マルチが壊されてしまったとか、電気柵も壊されたとかの話は聞く。共存するバランスを、今後我々が、飯山市民だけでなく、日本中の問題として考えていかなければならない。また、飯山市は自然だらけであるが、飯山市の子どもたちがそれに気づいていないように感じる。せせらぎサイエンス等でも、ヒゲナガトビケラ、ザザムシ、サワガニ、カジカなど色々な生き物を見せてあげればすごく喜ぶ。私の役目としては、将来を担う子どもたちに生き物を見せたりして、すごいと感動を与えることくらいしか今はできないかなと思う。自分もそうだったが、若い頃は都会に憧れて、都会に出たいという気持ちがある。ただ、都会の人達と話すと、飯山市はすごくいい所だ、住みたい、という声を聞く。東京から写真を撮るために道の駅で車中泊をして、へとへとになりながらも飯山はいい所だと言っている。実際には雪がすごいこともあるので、綺麗事では済まない部分もある。自然が沢山あり、外来種が入ってきてはいるが残っている部分もあるので、そういうことを子どもたちに伝えていけたら、いつか戻ってきてくれる子がいると思う。そういう意味で、教育は大事なことだと思う。小さい子の心の中に、ちょっとしたくさびを打つようなことが大事だと思う。

(委員)

最近思うことは、子どもが小さい頃はホタルがいたが、その場所を今通ってもホタルを見なくなったということ。緑が沢山あるといいなと思うが、その緑はただ生えている草ではなくて、欲しているのは整っている緑だというように思う。気持ちのいい環境というのは、それぞれ個人の努力の集まりなのだと思う。自分の家のまわりに花を植えるということはもちろん、自分の土地ではなくても家の前くらいは、ときれいにするようなことの連続で通学路がきれいに保たれたりする。ひとりひとりがきれいに住みたいという意識が、この先どれだけ続していくのかなと思いつつ、自分ができる限りはやっていきたいと思う。最近の動きとして、一時期植えた区内の木が、今では邪魔になって切ることがある。近所の遊び場の木も、以前は木陰ができる良かったが、大きくなつて電線の支障になつたため切られてしまった。自分の家でも、除雪の支障になる木は、除雪優先ということで切ってしまった。緑を欲していながら、一方で邪魔な木は進んで切ってしまうということは、自分の中でも葛藤がある。田んぼの緑は、絨毯のようでいいと思う。無くしたくない景色だと思いながら、自己所有の田んぼは人にお願いして作ってもらっていて矛盾の中で生きているようを感じる。私は鳥獣保護区の端に住んでいるが、いろいろな生き物がいてジャングル化しているようを感じる。キツネが集落内を我が物顔で歩いている。あちこちで見かけた話を頻繁に聞く。人を

見ても逃げようとしている。追い立てる気はないが、かつて思わなかった景色が目の前に起きていて、何とも言えない思いをしている。これから時代、人口の多い国が贅沢な食事をしていると、世界的に食糧難になると思う。そうなると、日本の食料自給率から考えると、危機感を覚えなくてはいけないのではないかと個人的に思う。しかし、地球温暖化のことを考えても、何十年も前から地球温暖化になる、対策はこのようなことがある、と言われながら、実際に動き出すのはそれが見えて来てからだった。そう考えても我が家では畠や田んぼで自ら耕作するという意識は弱いが、長い目で見て、食糧難になった時には自分の農地を持っている方が一番生き延びられるだろうと考えると、田畠をどうしようかというのが自分の中での課題である。

(委員)

長野市に住んでいるため飯山市の現状についてあまり承知していないが、長野県に住んで20年以上経つ中で、県内では飯山市に一番多く来ている。住むかどうかは別の問題があるが、非常に好きな場所なので関心を持っている。私の専門の立場で言うと、気候変動に関する長野県内の調査や研究、気候変動によってどのような影響を受けるのかということを仕事としているので、その観点から話をしたい。市長からのあいさつにもあったとおり、今はSDGsやゼロカーボンといった大きなキーワードのもとに全世界で取り組みが始まっている。特に2030年までの10年間は、人類がこのまま温暖化に突き進まないために最も重要といわれている。その意味では今回策定の基本計画の計画期間とほぼ一致するので、私の意見としては、第3次計画の中では地球温暖化については目立つような形で取り上げていただきたい。アンケートでは、50%程度の回収率ではあるにせよ、温暖化への関心は非常に高いという結果もあるし、令和元年の台風による被害や雪に対してもかなりの関心があるかと思う。そういう観点でも、気候変動や温暖化に関する部分を充実させていただきたいと思う。これから10年間が非常に重要ではあるが、実は、仮に今この瞬間にゼロカーボンを達成したとしても、10年間くらいは温暖化は止まらない。ということは、温暖化を止めるための省エネ等の対策は必要ではあるが、将来の変わる気候に対してどのように対応していくのかということも併せて考えていく必要がある。これを適応策と呼んでいるので、そういう観点もぜひ入れていただきたい。私が今いる環境保全研究所は、県庁と一緒に信州気候変動適応センターという業務も行っている。将来温暖化がどれくらい進むのか、進んだ後にどのような影響が出るのかといった情報もみなさんに提供していきたい。今、全国の都道府県や市町村で90の自治体が温暖化の適応計画を策定している。適応計画は、適応法が2018年に出来てから各自治体で取り組んでおり、非常に速いスピードで様々な自治体で作り始めている。内容は、大きなものから小さなものまであり、努力義務であるため作らなければいけないというものではないが、個別の計画だけでなく、環境基本計画の中に適応の部分を盛り込んで適応計画に位置付けるという方法も多くの自治体でやっているため、そういうことも検討いただけたとありがたい。職場が近ければ飯山市に住みたいと思っているので、定年を過ぎたら考えようと思っている。

(委員)

環境といっても、地球温暖化の進行や生物多様性の危機など地球規模のものから、騒音や悪臭など身近なものまで幅広く存在していて、各委員さんがそれぞれの立場でご意見をおっしゃったように、それぞれの分野でいろいろなことがあると常日頃感じている。私も飯山市に住んでいるわけではないが、飯山市の豊かな自然と、多種多様な生き物が暮らしている美しい風景、自然と里山の魅力、先人や今住んでいる方が築いた長年の営みが、維持継承していく大切な財産だと思っている。

しかし、その財産を、全てではないが壊しているのも人間なのだろうと思う。ひとりひとりが環境のために、何かに気づいて、考えて、変えていくきっかけがあり、日々の生活や事業活動のなかで見直しをしていくことで大きな成果を得ていくのがいいのではないかと思う。先ほども、例えば廃屋の話や農用地の荒廃による外来種の分布拡大という話もあったが、これは人口減少や高齢化が大きく関わっていると思う。それを見据え、どのような工夫をしていくのか。人が減ったからといってごみが減るのかというと、これは別問題だと思う。とりわけ近頃のコロナ下においては、報道にあるような巣ごもり需要によってごみの量も増えている。なかでもプラスチックが海に流れ出て海洋の生態系を侵してしまう、それについての上流県としての責務もあると思う。そういった意味でもプラスチックごみは大切なものだと思う。まだまだ、自然エネルギーの問題など色々なお話が出たので、ひとつひとつ対応していくには時間がかかると思うが、それぞれの委員さんの立場で話を出していただければと思う。

(会長)

それぞれの委員さんから意見等を出していただいたが、それぞれ立場や出身母体が異なるので、そうなのか、と思うこともたくさんあったかと思う。委員さん同士で聞きたいことがあれば出していただきたいと思うがいかがか。

(職代)

先ほど、電力や省エネに関しての話があったが、近年はどこのお宅を見ても、なんでも電気が無いと動かないというお宅が増えていると思う。省エネは実現するのかと疑問に思う。私の家はどちらかというと電化製品があまりない家で、茅葺き屋根でクーラーもいらない家だが、近所に出来た若者の家はほとんど電化中心の家なので、電気を使うだろうなと思う。今の時代、バランスが難しいと思う。

(会長)

簡単には答えが出ない問題かと思うので、またみんなで考えたい。私から伺いたいが、お話の中で適応計画という言葉があったが、適応計画というのはどのようなものか、初めて聞く言葉であるのでもう少しお教えいただきたい。

(委員)

適応というと、その環境に合わせていく、自然界でいえば進化が進んだりしていくようなことをいうが、ここでいう適応は、人間の社会を変わる気候に合わせていくというようなことを指す。いろんな分野に気候変動の影響が起きるが、わかりやすい例として例えば、夏に非常に暑くて、熱中症が出るような暑さになるというような場合には、熱中症対策をとることになる。暑さに慣れるというのではなく、熱中症にならないように予防したり、暑さに備えるということを適応という。農業で言えば、最近は暑すぎてりんごが日焼けをしたり品質が悪くなるということがよく言われているが、この場合は高温耐性の品種を早くから研究して開発したり、極端な話をすれば、りんごではなく暖かい地域で採れる作物に転換するということも適応という。洪水の対策で言えば、大雨に備えて堤防の嵩を上げるということや、早めに避難ができるよう事前に地域で話をしたり個人でも考える、今よりもっと雨が降るような気候に変わった場合に自分自身の身を守るために何をすべきかということもすべて適応という範疇に入る。新しい対策ということではなく、既に取り組んでいる異常気象に対する備えを、将来それが強くなった時、雨が増えた時などを想像して今からきちんと取り組んでいくということを適応策というように呼んでいる。

(会長)

ありがとうございました。2時からの会議でおよそ2時間やってきた。資料も大部なものであるのでそれぞれ読んでいただき、質問、意見等があれば次回出していただくようにお願いしたい。

5 その他

(1) 次回の審議会日程について

8月26日を候補日に設定し、正式には後日通知することとする。

(2) その他

事務局への提出書類及び資料等についての質問、意見の提出方法について事務局より説明
(事務局)

環境基本計画は分野が広く、事務局でもどのように取り掛かるか考えているところである。それぞれの委員さんの思いや、市民アンケートには市民の皆さんのが思っていることもある。それらをどういった方向でどうやってまとめるかということは、事務局でも現時点では考えている最中であり、特定の方向性を持って作っていこうというのは考えていない。ただ、その中でも考えていることが2点ある。1点目は、市長からの話にもあったように、市民それぞれが、市民それぞれのご家庭で取り組めるような内容を考えていきたいということ。事務局では、市民の皆さんのが取り組めることは何だろうということを考えている。もう1点として、環境ではその時々で注目されていることがある。現在で言うと、地球温暖化、ゼロカーボンがポイントとなってくると考えている。政府や長野県で2050年までにゼロカーボンを目指そうという動きがあるため、そこには触れていただきたい。大きな方向性としてはこの2点のみであり、後は委員の皆さん方の得意分野を活かしていただいて、計画を策定したいと考えている。